

1. 目指す子ども像に基づくねらい

(1) 目指す子ども像

Local	知識及び技能	自分の地域や国の文化とその背景を理解することができる。
	思考力・判断力 表現力	自己の確立に努め、社会の様々な情報を元に公平に判断し、根拠を持って自分の意見を他者に述べるができる。
	学びに向かう力	社会における自分の担う役割や責任、自分のもつ可能性を自覚し、自己肯定感を高め、学びや協働に向かおうとする。
Global	知識及び技能	他者や他民族等の文化を尊重し、国際社会の多様性を知ること異なる価値観に対し理解を示している。
	思考力・判断力 表現力	国際社会における様々な課題を発見し、その解決に向けて多様な観点から思考・判断し、発信することができる。
	学びに向かう力	多文化共生社会を受容し、自らその形成者として共に生き、共に課題に取り組もうとする参画と貢献の姿勢をもとうとする。
Communication	知識及び技能	外国語の音声や文字、語彙、表現、構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いや言語の働き、役割を理解するとともに、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。
	思考力・判断力 表現力	日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション能力を身に付け、聞いたり読んだりした話したりしたことを活用して話したり書いたりして発信することができる。
	学びに向かう力	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、言語や文化に対する関心を持つとうとする。

※網掛けは本資料作成者による

(2) 目指す子ども像に基づくねらい

高校は卒業後すぐに社会人として働き始める生徒もいるため、社会参画に向けた意識の高揚が重要なねらいの一つになる。これを踏まえてねらいとなるのが、

- ①自分の暮らす社会の課題を知ること
- ②世界的な規模での課題を知ること
- ③国や文化、民族などの違いに対し配慮と尊重の姿勢を持つこと

をとおして、

④社会を構成する一員として、よりよい社会に向け参画と協働の意識をもつことがねらいとなる。従って、高校における取り組みは、純粋に英語力を伸ばさせようとする学習内容でなければ、上記①から④のいずれかをねらいとしたものになる。

## 2. 各学年における取り組み

### (1) コロナ対応の動き

今年度は1学期途中までコロナ対応で休校措置となり、学習計画の変更を余儀なくされた。また、特筆すべき点としては1年次の宿泊研修の中止と2年次の見学旅行が延期となり、目指す子ども像の中にある「自分の地域や国の文化とその背景を理解することができる。」の部分が手薄になってしまったことは残念であった。また、例年行われている小高連携学習活動もコロナ対策のため行われておらず、Globeらしさを発揮する場面が限られてしまっていた。そのような中で、各学年で実施できた取り組みを述べていきたい。

### (2) 第1学年の取り組み

#### ➤ The Olympics --- オリンピックの歴史と意義を学び、考える

VISTA English Communication I の Lesson 4 がオリンピックについての題材であることから、世界規模の課題に触れる取り組みとして、オリンピックの歴史や目的について理解を深める学習を行った。班ごとにオリンピック競技に纏わる差別や競技の判断基準など調べ、発表した。

他の班の発表内容や意見を聞くことで、よりオリンピックへの興味・関心を深めることができた。

生徒は自分の意見や思いを相手に伝えることで、自信に繋がったと思う。

### (3) 第2学年の取り組み

#### ➤ Motara and Landmines --- 質問作りとリサーチ発表学習

VISTA English Communication I の Lesson 8 は、内戦で埋設された地雷のため前足が義足となってしまうゾウについての題材であった。本文内容は理解を深めるには情報不足であったため、むしろこれを好機と捉え、本文内容について「なぜ」や「なに」を生徒の中に喚起する取り組みを行った。

ダン・ロスステイン、ルース・サンタナらによる質問作りの手法を取り入れ、生徒の各グループが自分たちにとって重要と思われる「質問」を自ら設定し、これについてリサーチ英語で発表することとした。生徒の各班は主に①義足のゾウ・モタラ自身に係わる疑問と、②義肢をもった他の動物についての2つのテーマに大別され、それぞれリサーチした。

生徒たちは地雷の残酷さ、モタラを救うために働いた人々の協力、あるいはイルカやリスの義肢を作成するための専門家たちの努力と工夫などについて学び、それぞれ視野を広げていた。

#### ➤ Doraemon in the U.S. --- 文化学習

COMET English Communication II の Lesson 2 が日米のドラえもんの違いを題材にしていることから、文化を学習するとはどういうことなのかを考える機会とした。アメリカ版では日本のオリジナル版とは異なる表現や内容になっていることから、その変更の背景には何があるのかを考えさせた。

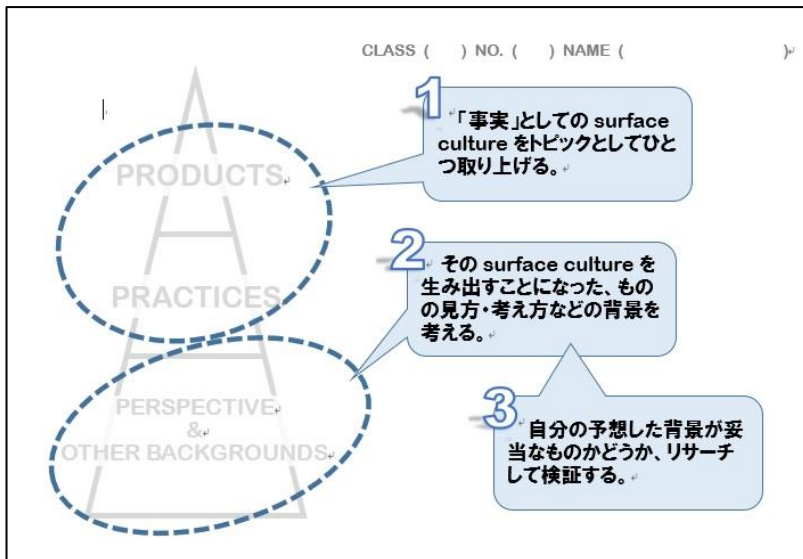
文化学習の導入にあたっては「文化の3Pモデル」と文化の「アイスバーグモデル」を参考に学習の枠組みを作り、生徒たちに文化について考えさせた。

取り組みは大きく以下の流れをとった。

- ・第1段階 文化学習の予備学習
- ・第2段階 日米の違いに気づく
- ・第3段階 違いの背景を考え調べる

#### 文化の3Pモデル

- **Products** (technology, music, art, food, literature, etc.; the things members of a group create, share, and transmit to the next generation)
- **Practices** (how members communicate and interact with one another)
- **Perspective** (what members of a culture think, feel, and value)

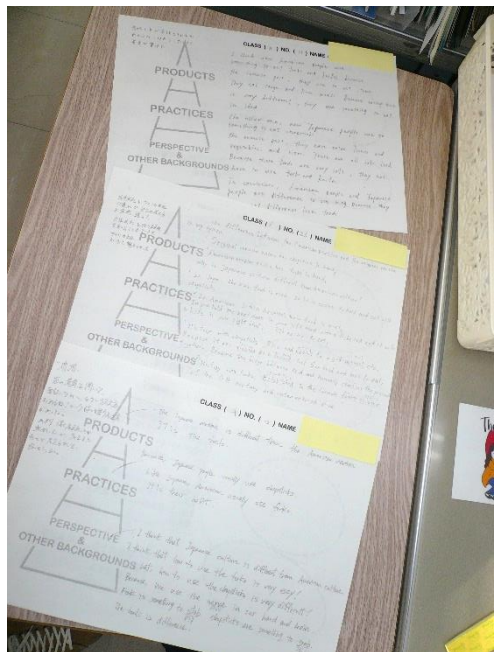


教科書ではオリジナル版をアメリカ版に変えるにあたり、まんじゅうがリンゴに変えられていること、暴力シーンが和らげられていることなどが記載されていた。生徒たちにはそれらの変更の背後にどのようなものがあるのかまずは自分で考えさせ、その後検証としてリサーチさせた。

生徒たちは新たに習うものの見方・考え方に戸惑う場面も多かったが、最終的に一定程度考えを深め、それを英語で表現することができた。

課題としては、一定程度考えを深めることはできたものの、この取り組みを反復しなければ当然ながら生徒の思考ツールとして定着しない。従って今後の異文化理解学習では積極的にこの取り組みを繰り返し、洗練させることでより深いものの見方を生徒に身につけさせたい。

一方で展望としては、Globe 事業で就学前から子どもたちは異文化学習を繰り返しているため、生徒の頭と心に積み重ねられたその学びを整理、定着させる学習として本取り組みが機能することを願い、また目指したい。小学生までは異文化に触れる楽しさを、そして中学校では異文化の知識を獲得することを子どもたちは体験してきている。しかしともすれば知って終わりになりかねない文化学習を、社会に出たときに活用していく知恵に昇華させられれば、Globe 事業の大きな成果の一つとして数えられるだろう。



#### (4) 第3学年の取り組み

##### ➤ The Emerald Isle --- アイルランドの歴史から差別問題について考える

VISTA English Communication II の Lesson 2 は、アイルランドの歴史についての内容であった。教科書内容のみではやや不十分であったため、調べ学習を通してさらにその歴史について学びを深めさせた。この学習から分かったことは、アイルランドは様々な差別や偏見を乗り越えてきた国であり、今でもその問題を抱えながらも解決に向けて国民全体が高い意識を保ち続けているということであった。ここから生徒たちには、地域や種類を越えて世界にはどのような差別が未だあり、それがどのように解決されるのかについて調べ考えさせた。生徒たちは人種だけでなく性差別や学歴差別などについても知り、その差別意識が自分に向けられたらどう感じるか、その差別はどのように解決されるかななどをグループで討議し、発表しあった。社会に出るのを目前に控えた3年生にとって、社会問題に対してどのような態度をとるのが望ましいのかを考える重要な機会となった。

➤ The Galapagos Islands---世界遺産の一つから環境問題について考える

VISTA English Communication II の Lesson 7 は、ガラパゴス諸島について調べ、今島で何が起こっているのかを調べ学習を進める。ガラパゴス諸島の豊かな自然を知ると同時に、人間がもたらす負の影響について考えをまとめる。生徒たちは、日本が豊かで恵まれている環境を知る事になる。ガラパゴス諸島での現状を把握する事だけでなく、人間が行った事によって環境を悪化させていることや動物の生態系に変化が起こっていることにも気づいた。

また、SDGSにも着目し、自分が出来ることにも考えさせる機会にした。

3年生にとっては、3年間の取り組みで世界に目を向けるきっかけになったことでしょう。